

【令和4年度第1回伊吹山を守る自然再生協議会】

議事録（案）

■日 時 令和4年7月5日（火）14時00分～16時00分

■会 場 米原市役所本庁舎3階 3A会議室

■出席者（敬称略）

出席：27人（うち代理出席5人、ZOOM出席5人）

伊吹山もりびとの会（西澤）、伊吹山ネイチャーネットワーク（竹村）、上野区（堀江）、伊吹山観光振興会（代理：高橋(兵)）、ユウスゲと貴重植物を守り育てる会（代理：瀧澤）、びわ湖の素 DMO（代理：^{ほうむら}法邑）、山頂山小屋組合（松井）、日本自動車道（水谷）、滋賀鋳産（代理：柴田、南浮[ZOOM]）、近江鋳業（代理：澤田）、環境省近畿地方環境事務所野生生物課（平井[ZOOM]）、岐阜県環境生活政策課（代理：安達、日下部[ZOOM]）、揖斐川町商工観光課（高橋[ZOOM]）、関ヶ原町地域振興課（代理：山本）、長浜市都市計画課（代理：山田[ZOOM]）米原市自治環境課（瀧上）、米原市まち保全課（深田）、米原市生涯学習課（代理：高橋）、米原市地域振興課（石河）、滋賀県文化材保護課（代理：内藤）滋賀県琵琶湖環境部（中村）、滋賀県自然環境保全課（矢野）、滋賀県湖北環境事務所（内藤）、須藤、高柳、青木、柴田

欠席：5人

文化庁文化財部記念物課（田中）、岐阜県揖斐県事務所環境課（野田）、米原市シティセールス課（坂）、野間、柳沢

■議事進行 会長：中村（滋賀県琵琶湖環境部次長）

[凡 例] 会長◆ 委員○ 事務局等●

報告事項に入る前に、会長から新委員(青木委員、柳沢委員)の参加について連絡。青木委員から挨拶をいただいた(柳沢委員は所用のため欠席)。

報告事項

(1) 令和3年度事業報告および決算報告について（資料1-1～1-3）

・令和3年度事業報告および決算報告について、事務局より説明が行われた。

○(委員) トイレは何か所あるか？AEDの設置箇所はどこか？株式会社ヤマップとはどういう会社か？

●トイレは4か所。AEDは山頂公衆便所に設置。株式会社ヤマップはヤマップという登山者向けアプリの運営会社（本社所在地 福岡）である。

(2) 令和4年度事業の進捗報告および今後の予定について (資料2-1~2-3)

- ・令和4年度事業の進捗報告および今後の予定について、事務局より説明が行われた。
 - (委員) 伊吹山入山協力金制度導入10年に向けたプロジェクト会議のメンバーは協議会の委員から選ぶのか? 実施主体は米原市か? 3合目のゴンドラ、廃墟ホテルの在り方をどうするかについても、是非プロジェクト会議で検討してほしい。顧問弁護士等に相談し、関係者が集まり期限を切って解決方法(行政代執行等)を検討し、実行してほしい。
 - 基本は部会のメンバーを中心に会議ごとに議題に関係の深い方の出席を予定している。実施主体は米原市の予定。
 - (委員) プロジェクト会議と協議会の関係について何も説明がない。明確に記載する必要がある。
 - (委員) ネット立上げの体制見直しの具体的な方策は?
 - 幾つかの方法を考えており、今後プロジェクト会議や部会等で説明し意見を伺いたい。

(3) 各団体保護活動について (資料3-1~3-3)

- ・伊吹山もりびとの会、伊吹山ネイチャーネットワークおよびユウスゲと貴重植物を守り育てる会より活動の説明が行われた。
 - (委員) 笹又付近の希少植物を守る防護柵、当初は金属柵を検討していたが、冬に網を下ろすタイプのほうが有効であると思われ、今後関係者で検討したい。資材だけで約50万円程度の費用見込み。
 - (委員) 伊吹山ネイチャーネットワークが実施する啓発事業の参加者はどのように募集しているのか。何名程度参加されるものか。
 - (伊吹山ネイチャーネットワーク) インターネットで募集しており、親子10組程度を募集している。
 - (委員) ユウスゲと希少植物を守る会が実施している植物観察会はどこで実施しているのか。
 - (ユウスゲと貴重植物を守り育てる会) 3合目の柵内(森林付近)で実施している。

(4) 伊吹山ニホンジカ捕獲事業令和3年度報告・令和4年度計画について (資料4)

- ・伊吹山ニホンジカ捕獲事業令和3年度報告・令和4年度計画について、米原市まち保全課より説明が行われた。
 - (委員) 雄雌の捕獲の割合が同じなのはどうか。寝ぐらの調査はどうか。胃内容調査はしているのか。第一胃の調査をすればどのような植物が食べられているかわかる。
 - (米原市まち保全課) 米原市全体では1700~1800頭捕獲しており、雌のほうが多い

が、伊吹山での捕獲は雌雄ほぼ同数であった。寝ぐらについては冬場の捕獲しか実施していないため正確にはわからない。胃の内容物までは調査していない。

○（委員）市全体では1700～1800頭捕獲されているということだが、ジビエの有効活用も検討してほしい。事業費はどの程度か。

→（米原市まち保全課）単年度で5000万円の予算である。

○（委員）猟友会の捕獲実績について、2月の12頭は銃による捕獲であり、図2の捕獲数に含まれていないということで良かったか。錯誤捕獲の状況はどうだったか。図をもう少し工夫した方がわかりやすい。

→（米原市まち保全課）2月、3月の捕獲は猟友会に委託し、銃による捕獲である。図2の捕獲数には含まれていない。錯誤捕獲の状況は、今は把握できていないため、確認させていただく。

○（委員）何月に何頭捕獲されているのか、どこの罠（捕獲檻）で捕獲されているのか等を整理し報告してほしい。2月はなぜ銃捕獲が1回2時間だけだったのか。シカが捕獲できる時期なので何度も集中的に実施すべき。錯誤捕獲に関わるアニマルウェルフェアの問題は国内外の研究者の関心も高いため、今後報告に加えるべき。

→（米原市まち保全課）委託の発注の関係で1回だけだったが、今年度改善していきたい。

（5）採掘跡地緑化事業令和3年度実績報告・令和4年度計画について（資料5）

・採掘跡地緑化事業令和3年度実績報告・令和4年度計画について、滋賀鉱産（株）より説明が行われた。

・事業予定地について現地測量を行ったところ、H24年度に県と締結した覚書記載の内容について、県に相談していることの報告があった。

○（委員）昨年に引き続き4,000㎡の吹付工法による緑化作業を計画されているが、費用はどの程度か。毎年計画的に緑化を行ってほしい。また昨年度は現場確認も実施していただいたが、今後も実施してほしい。採掘地点の標高について毎年2m程度ずつ下がっているように思うが、それで間違いないか。

→（滋賀鉱産）予算は1,500万円で計画している。緑化計画については採掘後法面の形成が終わらないと緑化の作業ができないため、採掘作業の進行具合によるところである。当社としてもシカの食害には頭を悩ませており、今後も見学の希望があれば対応する。現場を見て頂いて、専門家のアドバイスをいただきたいと考えている。採掘地点の標高については、3年で10m下がる計画である。

○（委員）緑化の場所はどこか。過去に緑化した箇所に再度緑化しているのか。シカの食害を受けない木本類も検討してはどうか。木本と草本を組み合わせて少しずつ実施していくしかない。原生の植物の保全も考慮してほしい。

→（滋賀鉱産）毎年新たな斜面で緑化を行っている。是非現場を見てアドバイスをいた

だきたい。

- （委員）緑化完了後採掘地は緑化面積から減じるべき面積なので、今後は緑化完了後採掘地の総面積だけでも明記される方が良い。シカ食害対策製品の試験だが、面積が小さ過ぎるのでこれでは効果があるか判断難しい。この結果に一喜一憂せず、再度検討された方が良い。

→（滋賀産）社内で協議し検討したい。

（6）岐阜県における伊吹山の生態系回復への取り組みについて（資料6）

・岐阜県における伊吹山の生態系回復への取り組みについて、岐阜県環境生活政策課より説明が行われた。

- （委員）ライトセンサスは、ドライブウェイのような急傾斜地では効果が出にくい、岐阜大学等に相談されているのか。植生遷移調査の囲い面積が小さすぎる。

- （委員）植生遷移調査の囲いは比較のため一辺が 1m、5m 等にするほうが良い。

→（岐阜県環境生活政策課）岐阜大学野生動物管理学研究センターに相談の上ライトセンサスを実施している。植生遷移調査の囲い面積については今後検討していきたい。

- （委員）笹又の段々畑内は植生がきれいに残っている。そこも調査した方が良い。

- （委員）行動圏調査について、過去に滋賀県側も実施されているのでデータ共有された方が良い。夏季のシャープシューティングは他にエサとなる草本が多く、時期的に誘因が難しい。夜間等も検討すべき。

→（岐阜県環境生活政策課）米原市からデータ共有いただいている。今後も連携して実施していきたい。シャープシューティング等個体調整の実施については、幅広く情報収集を行い、出来ることから取り組んでいきたい。

- （委員）岐阜県内で県と関係市町今後も関係機関が協力して実施してほしい。

その他

●事務局から次に二点について報告。

①NPO法人霊峰伊吹山の会より、「設立後まだ日が浅く、活動の実績が十分でないこと等から、協議会への参加は時期尚早ではないかと判断したため、現時点での参加を見送りたい」との申し出があった。

②伊吹薬草の里文化センターの管理者経由である民間企業から伊吹山三合目での保全活動に協力したいと相談があった。また詳しい情報が入り次第共有させていただく。

- （委員）10月の銃捕獲の実施は、観光のハイシーズンであるため大変リスクである。何かあっては今後の協議会の活動に大きな支障が出るため、安全面を十分に考慮して実施するかどうかは、ギリギリまで検討していく必要がある。

→（伊吹山もりびとの会）しっかりシカの捕獲を実施しないと、山頂の植物がなくな

ってしまう。シカは人間を見ても全く怖がっていない。早急に対策をしていかなければならない。

→（委員）もちろんシカの捕獲は大切だが、植生回復には柵内からシカを排除することが効果的。山頂の西・中央ゾーンではまず柵の補修を優先し、その上でシカの追い出しを行うべき。登山道周辺の植生の回復には捕獲等が重要である。シカの捕獲は積雪期に標高が低くてシカが越冬している場所で集中的に行うべき。